

明石海峡・博多港シップウォッチング

事務局長 池田良穂

梅雨真っ盛りの6月下旬に、明石海峡横断航路の船上からと、博多港で、それぞれ短時間でしたがシップウォッチングを楽しむことができました。

まず、明石海峡の横断航路船には、ジェノバラインの運航する「まりん・あわじ」の運航状態を審査する淡路市の委員会に出席するために6月25日に乗船しました。当日は「まりん・あわじ」はドック中で、明石港から岩屋港まで往復とも単胴高速船「まりーんふらわあ2」が就航していました。

航海時間はわずか15分ほどで、明石海峡を通過する大小さまざまな船と交差するのが楽しみで、航海中ずっと露天甲板にでてシップウォッチングをしました。往復ともに大型船には出会いませんでしたが、井本商運の小型コンテナ船と交差してベストショットを得ることができました。

明石海峡横断航路は「たこフェリー」が撤退して、ジェノバラインの高速船だけが運航されていますが、新造船「まりん・あわじ」は明石海峡大橋を通過できないバイクを搭載することができるため好評で、年間1万台弱を運んでおり、淡路島がサイクリングに力を入れていることから約3万人の自転車客も輸送しています。

委員会が開かれて運航状態の審査が行われるのは、「まりん・あわじ」は淡路市が建造して、ジェノバに運航管理をまかせているためです。地方の公共交通機関を持続的に維持するための1つのやり方です。

博多港には、6月30日と7月1日に訪問しました。時々、土砂降りの雨の降る状態でしたが、30日は「コスタ・ネオロマンティカ」が入港し、1日には「グローリー・シー」と「コスタ・フォーチュナ」の2隻が入港しました。ちょうど雨の上がった時に、「グローリー・シー」が入港するのを迎えることができました。

明石海峡



明石港に入港して来るジェノバラインの高速船「まりーんふらわあ2」。



明石港に停泊する「まりーんふらわあ2」



岩屋港に到着した時には、珍しい船の姿がありました。



夕刻には、浮ドック内に入り、修理のようでした。



帰りの高速船からは、井本商運の内航コンテナ船と、遠くに日韓航路の「パンスタードリーム」が近づいてくるのが見えました。

博多港



7月1日の朝に入港してきた「グローリー・シー」。



高速道路を走るバスの窓から、RoRo 貨物船「フェリーたいしゅう」の姿が見えました。博多と対馬を結ぶ対州海運の高速 RoRo 貨物船で、博多からは夜行便、対馬からは昼便となります。12名までの旅客も扱っています。